第十四回配本

姫路市史 第五巻 下
本編 近現代2

監修 神戸大学名誉教授 八木哲浩
大阪市立大学名誉教授 山崎隆三

観光の姫路とその付近 昭和6年ころ 吉田初三郎／画

大正から昭和へ―発展する「姫路」のあゆみ
―本編近現代2の刊行にあたって―

第十四回配本、『姫路市史』第五巻下本編近現代2をお届けします。本巻は、史料編第十三巻上に対応するもので、大正期と昭和戦前期を記述しています。構成は、第五巻上を継承して第三章「大正デモクラシー期の姫路」、第四章「戦争と姫路」から成っています。

第三章の大正期は、第一次大戦への日本の参戦から始まります。軍都としての施設を充実させてきた姫路は、ドイツ・オーストリア兵の捕虜を受け入れています。船場本徳寺にあるドイツ兵の残した「ライン河畔の古城を模した噴水」は、近代史の考古遺物としても貴重なものです。この時期は、「大正デモクラシー」という言葉に表現されるように民衆の台頭が著しく、姫路でも米騒動、水平社の創立、普通選挙の施行など民主主義の進展が見られます。そして、姫路市民の高い文化へのあこがれを反映して、姫路高等学校の創立があります。戦後になって旧制高校は国立大学に昇格するなかで、全国でただ一校、旧制姫路高等学校のみが廃校となります。姫路市民としてはなつかしい想いで、姫高を記憶に止めたいと思います。

第四章では、大正期より引き継いだ「グレート姫路」構想の実現に向け、周辺町村との合併が進みます。そして、昭和四年に堀市長以来の懸案であった上水道が完成し、都市計画に基づく基盤整備が進展します。また、臨海部では日本製鉄の進出や飾磨港の重要港湾指定など産業構造の変化をもたらす重化学工業の発展がみられます。

しかし、一方でエスカレートする戦争の暗雲は、市民生活を徐々に圧迫し始めます。市井の一市民が残した「谷村日記」は、戦時色を深めていく市民の日常を丁寧に記録しています。そして、二度にわたる空襲と被災した姫路市民の姿が、余すところ無く描かれて胸を打ちます。

第五巻本編上・下巻を通読すれば、私たち姫路市民が、近代化のプロセスで得たもの、失ったものの一端が示されていて、感慨深いものがあります。

第五巻 下 本編 近現代2 目次

第三章 大正デモクラシー期の姫路

第一節 大正デモクラシーの展開
1 第一次世界大戦と姫路
2 米騒動
3 社会事業政策の展開
4 都市基盤整備の進展
5 大正・昭和初期の政治の動向
6 市町村行財政の展開と郡役所の廃止
7 水平社の結成と清和会の発足
8 教育の動向
9 文化の動向

第二節 第一次大戦前後の経済
1 大正期の農村
2 漁業
3 公益専売と塩業改良
4 工業の発展と姫路財界
5 大戦景気と戦後の商業・金融
6 大戦後の交通機関の発展

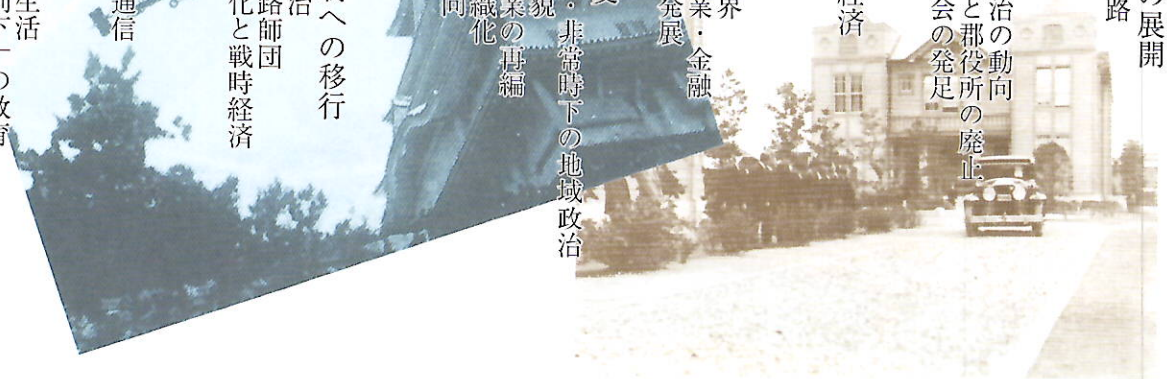
第四章 戦争と姫路

第一節 昭和恐慌と満州事変
1 昭和恐慌・満州事変・非常時下の地域政治
2 昭和初期の農村の変貌
3 恐慌からの回復と工業の再編
4 銀行合同と商業の組織化
5 満州事変と軍隊の動向
6 恐慌下の部落問題
7 昭和期の教育
8 逼塞する文化

第二節 日中戦争と戦時体制への移行
1 日中戦争期の地域政治
2 日中戦争の開始と姫路師団
3 西播磨の重化学工業化と戦時経済
4 戦時下の農業
5 戦時期の塩生産
6 銀行と商業
7 戦時体制下の交通・通信

第三節 敗戦への道
1 対米・英開戦と姫路
2 戦局の深刻化と市民生活
3 国民学校と「決戦体制下」の教育
4 空襲の被災と軍都姫路の消滅

付図（別箱）
1 姫路市街全図 昭和4年
2 飾磨町全図 昭和11年
3 網干町全図 昭和14年
4 戦災概況図 姫路市 昭和20年
5 観光の姫路とその付近 昭和6年



既刊案内

第一回配本（昭和六十一年）
◎姫路市史第十巻 史料編 近世1 A5判 九一八頁 頒価 六、三〇〇円

第二回配本（昭和六十三年）
◎姫路市史第十四巻 別編 姫路城 A5判 九一三頁 頒価 五、五〇〇円

第三回配本（平成元年）
◎姫路市史第十二巻 史料編 近現代1 A5判 八四四頁 頒価 六、一〇〇円

第四回配本（平成四年）
◎姫路市史第三巻 本編 近世1 A5判 五八六頁 頒価 五、四〇〇円

第五回配本（平成四年）
◎姫路市史第十五巻 上 別編 民俗編 A5判 七七九頁 頒価 五、三〇〇円

第六回配本（平成六年）
◎姫路市史第十三巻 上 史料編 近現代2 A5判 九五六頁 頒価 六、五〇〇円

第七回配本（平成七年）
◎姫路市史第十五巻 中 別編 文化財編1 A5判 五五三頁 頒価 三、五〇〇円

第八回配本（平成八年）
◎姫路市史第十一巻 上 史料編 近世2 A5判 八七五頁 頒価 六、四〇〇円

第九回配本（平成十年）
◎姫路市史第七巻 上 資料編 自然 A5判 四四五頁 頒価 五、六〇〇円

第十回配本（平成十一年）
◎姫路市史第十一巻 下 史料編 近世3 A5判 九三一頁 頒価 五、七〇〇円

第十一回配本（平成十一年）
◎姫路市史第十五巻 下 別編 文化財編2 A5判 八〇六頁 頒価 五、三〇〇円

第十二回配本（平成十二年）
◎姫路市史第五巻 上 本編 近現代1 A5判 八〇七頁 頒価 五、〇〇〇円

第十三回配本（平成十三年）
◎姫路市史第一巻 上 本編 自然 A5判 五九四頁 頒価 五、〇〇〇円

（送料 各巻共 五〇〇円）

購読申込みについて

・書 名 姫路市史第五巻 下 本編 近現代2
・本の体裁 A5判 上製本 中性高質紙使用 装丁用織物表紙 貼函入
・頒 価 五、〇〇〇円 送料五〇〇円（1部につき）
・頒布方法 史料整理室、又は、市政情報センター（市役所一階）でお求め下さい。
郵送希望の方は、左記へお申込み下さい。
・申 込 先 城内図書館 史料整理室
〒六七〇-〇〇二二 姫路市本町六八-二五八（日本城郭研究センター）
電話（〇七九二）八九-四八八六 FAX（〇七九二）八九-四八九一